

人文社会学部 日本学科

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

日本学科は、日本語および日本の文学・文化・歴史について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識を体系的に身につけ、自ら見出した課題の解決に取り組む人材、および、こうした学びを通じて体得した人間洞察力と、高度な日本語運用能力に基づく説得的かつ豊かなコミュニケーションを通じて、他者との調和ある共生を目指すことのできる人材の育成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) 日本および日本語に関する幅広い知識と教養

日本の言語・文学・歴史・文化について、グローバルな視野に基づいた幅広い知識を体系的に修得し、基本的な事項を理解することができる。

2) 豊かで的確なコミュニケーション能力

自身の考えや意見を他者にわかりやすく伝えるための、適切かつ精確な日本語表現力と表現方法を修得し、状況に応じて的確に運用できる。

3) 日本語による総合的・論理的な思考力と分析力および問題発見・解決能力

(高度な日本語運用能力)

ことばを適切に使う力・ことばによって伝える力を高めることによって修得される論理性・構想力・説得力・対応力・企画力・統率力を活かして、自らが発見した課題の解決に取り組み、社会(組織)で活躍することができる。

4) 自己と他者に対する理解、および豊かな人間性の涵養(確かな人間洞察力)

日本文化に関する幅広い知識を学び、これを分析することによって日本人の心性・感性・思考性を把握し、自文化および異文化の理解のみならず、自己と他者への理解を深め、より豊かな人間性の涵養を通じて他者との調和ある共生を目指せる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

日本学科の教育課程は、日本の言語・文学・文化・歴史の各分野を①日本語・日本文学コース、②文化・歴史・観光コース、③現代文化コースの専門3コースに体系化し、その上で、各コースに固定することなく、学生個々の興味・関心や将来の進路に応じて、それぞれの科目群から自由に選択し、幅広く学ぶことが可能となるように編成します。また、基礎的知識・技能や、演習による専門知識の深化のために学科共通領域を設け、博物館学芸員資格取得のために博物館学芸員課程を設定します。

- 1) 学科共通領域には、積み重ねて履修する演習科目とその他の科目を設定する。演習科目としては、基礎的知識や表現力を修得する「日本学表現演習Ⅰ・Ⅱ」「日本学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」と、専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を配置する他、古典の基礎や書道の技能に関する科目等も準備する。
- 2) ①日本語・日本文学コースには、『日本語学分野』と『日本文学分野』を設定する。『日本語学分野』には日本語の体系や歴史、および日本語教育に関する科目が、『日本文学分野』では上代から近代・現代に至る時代領域に加え、漢文学関係の科目を配置する。いずれの分野にも中学校・高等学校「国語」教員免許取得に関わる科目を重点的に盛り込み、中高「国語」の授業実践に資する科目を配置する。
- 3) ②文化・歴史・観光コースには、『文化分野』、『歴史分野』、『観光分野』という3分野を設定する。『文化分野』には日本文化について美術的・芸術的・宗教的観点等、多様な角度から考察する科目を、『歴史分野』でも日本史をさまざまな観点から捉えなおす科目を配当し、『観光分野』には地理学から旅行実務まで幅広い科目を配置する。
- 4) ③現代文化コースには、文学・音楽・映像・芸術からサブカルチャーに至るまで、広範な現代の文化事象を扱う科目を設定する。また、インターネットやSNS、メディアミックス等、現代のメディア状況を分析する科目も配置する。
- 5) 博物館学芸員課程においては、講義科目から博物館における実習科目まで体系的に科目を配置し、現代社会において求められる学芸員の多様な職務に対応することのできる知識を修得する。

(2) 教育方法

- 1) 日本および日本語に関する幅広い知識と教養を修得するため、1・2年次に専門3コースに関する概論科目・基礎科目を設置する。
- 2) 日本語による豊かな確かなコミュニケーション能力を体得するため、1・2年次に日本語表現力を高める科目を配当する。アクティブ・ラーニングの観点からプレゼンテーション実践の機会を積極的に設定し、学修ポートフォリオを活用して主体的な省察に取り組ませる。
- 3) 3・4年次には、専門演習を中心に、思考力・分析力、問題発見・解決能力を向上させる。専門領域の諸問題について論理的思考に基づく成果発表の機会を設定し、主体的に問題を発見し、解決する能力を育成する。
- 4) 各授業におけるプレゼンテーションに相互批評を導入し、ルーブリック評価等による明確な基準を設定することで、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性を育み、相互に高め合う教育環境を実現する。授業と連動したインターンシップや学外ボランティア、地域連携の機会も活用する。
- 5) 専門演習や教職教育、日本語教員養成プログラム、博物館学芸員課程において、フィールドワークや実地見学を積極的に取り入れ、体験・経験を通じて学びの機会を提供する。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) 講義科目においては、定期試験の基本的な重要性を踏まえつつ、中間テスト等の小テスト、課題レポート、コメントペーパー等を実施し、学修成果に対して多面的に評価する。
- 3) 演習科目においては、ICTの活用等を通じて他者にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション、それに応じての相互批評的ディスカッション、あるいはワークシートを用いたグループワーク、成果をまとめたレポート作成等、多様な実践に対する評価を中心に、学修ポートフォリオによる主体的な省察を踏まえ、総合的に評価する。
- 4) 教職教育、日本語教員養成プログラムにおいては、専門知識の修得をテスト等で評価するとともに、専門知識の的確なアウトプットについては模擬授業の実践を通じて評価する。実践的な応用力については、地域や教育現場におけるインターンシップやボランティア等の実践も評価に活用する。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

日本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 中学・高校における「国語」や「書道」、「日本史」や「地理」等の科目の基本的な内容を理解していること

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

2) 日本について知り、日本語の表現を活用して情報を発信する能力を身につけることを希望すること

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 日本文化に関する幅広い知識を学び、これを分析することによって主体的に課題を解決することに取り組む意志を持つこと

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

4) 日本人の心性を理解するとともに異文化への理解力を身につけ、他者と協同して課題を解決することに取り組む意志を持つこと

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕

5) 将来、中学高校「国語」・高校「書道」の教員、外国人に日本語を教授する日本語教員、博物館学芸員課程で得られる知識を活かした職業を目指していること。あるいは、観光・文化・教育・出版・広告などの一般企業等に就職し、日本についての知識と日本語表現力を活かして活躍することを目指していること

〔求める要素：関心・意欲・態度〕